

## 6.3 教育方法のあり方

### 進捗状況報告

(1) 1. 2007年秋学期からA号館の全教室で無線LANの使用が可能となった。2008年度には、マルチメディア教室を使用する授業は、A号館302教室が14クラス（春・秋とも使用）、パソコン教室が5クラス（春・秋とも使用4、秋のみ使用1）である。

2. A号館の授業にプロジェクタを貸し出すなど、パワーポイントを使用する授業の増加につとめている。2008年度春学期には、プロジェクタを使用する科目は25クラス、VTR・DVD機器を使用する科目は27クラスである（単発的に使用する科目・クラスを除く）。

3. 2008年度春学期には、4科目について各2クラスを開講し、うち3科目については両クラスとも履修者が500名を下回って、ほぼ期待した効果が得られた。しかし1科目については履修者の偏りが生じ、1クラスの履修者が500名を上回った。2008年度現在、履修者が500名を超えるが1クラスしか開講していない科目は10科目程度あり、オーバーサイズクラスの解消には程遠い。学部学生定員を減員しないでこの現状を改善するためには、より一層の工夫が必要である。

(2) 上記の通りである。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

(1) 1. 無線LANを使用する授業の実践例としては、授業内容の理解に必要なwebページの検索・閲覧と提示、レポートの授業中提出とそれに対する教員からのコメントや他の学生を交えた討論などがある。

### 学内第三者評価

2003年度に設定した目標の中で、A号館全教室への無線LAN導入は2007年度秋学期に実現し、2008年度には、A号館のマルチメディア教室やパソコン教室を用いる授業も増加しており、目標に向かって改善が進んでいる。無線LANを用いた授業方法や学生の学習方法などは新しい試みであり、その内容について具体的な記載が望まれる。また、A号館ではプロジェクタの貸し出しにより、パワーポイントを使用する授業も増加しており、この点でも改善が進んでいる。オーバーサイズクラスの解消は教育の質を高める上で不可欠な事項であり、2クラスに分けるなど、工夫を試みているが、効果があつたクラスと効果が上がらなかったクラスがあり、改善に向けてのさらなる取り組みが期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があつた。  
問題解決に向けての努力がなされているが、オーバーサイズクラス解消についてはさらに工夫が必要である。